

1. 授業の概要(ねらい)

ジャーナリズムを古典的な分類法によって細分化すれば、送り手／受け手／メディア／コンテンツ／効果の5つに分けられます。本講義では主に、新聞におけるコンテンツ、つまり新聞記事を扱います。

新聞記事は複雑な力学のなかで生成されるため、さまざまなバイアスがかかっています。特定の新聞記事は、ある視点と視角から書かれます。したがって読者は、ひとつの新聞記事やニュースを、多面的・多角的にみる必要があります。

将来ジャーナリストを目指すひとはもちろん、一般市民あるいは社会人にとっても、新聞記事の「読み書き能力(リテラシー)」は重要です。批判的に読み、批判的に書く能力は、就職活動においても必須です。参加者と共有しながら、基礎的能力を身につけましょう。

2. 授業の到達目標

1)卒業レポートや卒業論文の執筆において必要となるであろう、ジャーナリズム分析の基礎的能力を身につける。

2)いくつかのイシュー(issue:社会問題／論点)に興味をもち、「定点観測」することができる。

3)そのイシューについての簡単な解説レポートが執筆できる。

3. 成績評価の方法および基準

報告の内容や議論参加(50%)と、期末レポート(50%)を総合して評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

*教科書は特に指定しない。

参考文献

藤田真文・岡井崇之、他 『プロセスが見えるメディア分析入門』 世界思想社、2009年

5. 準備学修の内容

以下の2点を行なってください。

1)毎週の実習以外の時間に、自らが選んだテーマについて、各自でコンテンツ分析(場合によってはメディア分析)を行う。

2)その上で、発表に向けて準備する。

6. その他履修上の注意事項

▼後期に「ジャーナリズム実習」を履修することが望ましい。

▼他の報告者のプレゼンテーションも、他人事(ひとごと)ではなく、自分が担当しているかのように参加してください。「引き受ける」態度は、学問においても仕事においても重要です。

▼批判的に議論しましょう。ただし、批判的というのは、必ずしも否定を意味しません。端的に言えば、是々非々です。

▼プレゼンテーションには大変な準備が必要です。報告者は最大限リスペクトしましょう。

7. 授業内容

【第1回】 ガイダンス、イントロダクション。自己分析レポート(履修者全員)。

【第2回】 ジャーナリズムにおける分析の基本:内容(コンテンツ)分析

【第3回】 レポート作成のための資料探し①:新聞の資料性

【第4回】 レポート作成のための資料探し②:新聞データベースの利用

【第5回】 新聞資料をもとにした内容分析の事例①

【第6回】 新聞資料をもとにした内容分析の事例②

【第7回】 新聞記事分析の報告と講評(1)

【第8回】 新聞記事分析の報告と講評(2)

【第9回】 新聞記事分析の報告と講評(3)

【第10回】 新聞記事分析の報告と講評(4)

【第11回】 新聞記事分析の報告と講評(5)

【第12回】 新聞記事分析の報告と講評(6)

【第13回】 新聞記事分析の報告と講評(7)

【第14回】 新聞記事分析の報告と講評(8)

【第15回】 まとめ